

子どもの権利条例で何が重要か 育てたい子ども像とは何か

宮代 子どもの今を大切に考える方は、子どもの権利条例においてどう尊重されていくのか伺います。次に学校・家庭・地域の協働体制に関する庁内検討会議報告書には、育てたい子ども像という概念が出てきています。市長は、育てたい子ども像とはどんな子どもの姿を思い描いていますか。

市長 子どもの最善の利益を明文化し、今を生きる子どもの居場所や権利侵害の予防など議論を進めていく。理想的な子ども像を設定し、当てはめるものではなく、学校・家庭・地域で思いを共有し協働するためのものである。子育て支援は全ての市民に関係することであるという文脈である。

学習者用コンピュータを 活用した柔軟な授業体制

宮代 コロナ禍における学習者用コンピュータの活用について伺います。

教育長 学校教育の質を担保するためトライアンドエラーで適切・効果的な使い方を追求。

宮代 学習者用コンピュータは ICT を学ぶことが目的ではなく手段として活用するのがよいと考えるが、市長のお考えは？

市長 ICT を学ぶことが目的ではなく手段として活用する。デジタルシチズンシップ教育を推進していく。

宿泊療養施設の開設に 向けた説明は十分だったか

宮代 東京都によるコロナ宿泊療養施設が開設されたが、同じ建物内に保育園があり、十分な説明がなされたと市長はお考えでしょうか。結局、転園・退園者が出ており、市民生活に負荷がかかったというふうに考えています。市としての御見解を伺います。

市長 十分だったかについては疑問の余地がある。必要な施設だと認識するが園児など一部の市民に負担をかけ心苦しく思う。

実効性のある温暖化対策

宮代 武蔵野市では現状年間に約60万トンの温室効果ガスを排出。うち家庭系・事業系で各4割、計8割を占めています。2030年までに目標を達成するためには何ができるか、何をしなければいけないか、具体的な方策について伺います。また、市民に負担をかけるだけでなく、行政としての支援策、助成事業を検討しているか伺います。

市長 各家庭の低炭素電力切り替えを促進するにはコスト増などの課題があり、助成制度設計を進め、広報活動にも注力する。水素社会への課題等動向を注視していく。

外環道路特別委員会

宮代 シールドトンネル工事が陥没・空洞の要因の一つである可能性が高いとのこと。委員会は技術のメカニズムの解明のために立ち上げられ、事業の継続性を議論する場所ではない。技術屋がサイエンスのメカニズムを解明。経済や社会の専門家や政治判断も必要です。融合的に本当に適切なメンバーで必要な議論をしないと我々武蔵野市民が納得するところに行き着けない。不安を抱える住民の考えも聞き、進むのか、やめるのかも含めてコンセンサスを醸成し、考えていければと思います。

議会でのヤジ

宮代 「武蔵野市議会の品位向上を求める陳情」は「意見付き採択」となった。私は「ヤジはゼロだ」と考える。議員の「品位」は、自己判断ではなく、市民の皆様はどう判定されるかのはず。武蔵野市議会は市民の皆様の声を傾聴し、それを具現化することが求められている。良い議論をするために、不規則発言（≡ヤジ）は必要なのか。ヤジを使わないプレースタイルを確立し、徹頭徹尾市民のために働くというフィロソフィーを確立するように、まだまだ努力しなければいけないと考える。

* 紙面の都合上、ごく一部しかご紹介できず、とても残念です。武蔵野市議会ホームページでは会議録を掲載してあります。また、インターネットでのライブ中継と録画放送もごさいます。そちらもご覧いただき、ぜひ、皆さまの声をお聞かせください。